

施工説明書

屋外形冷凍機 (CO₂ 冷媒採用ノンフロン冷凍機)

品番

OCU-CR1001VF (-SL)

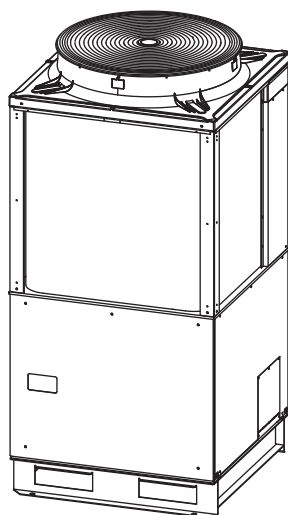
このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

この施工説明書を必ずお読みいただき、説明に沿って正しく施工してください。

特に「安全上のご注意」(2～6 ページ)は、事前に必ずお読みいただき、安全に施工してください。

この施工説明書は、大切に保管してください。

製品には、注意ラベルが貼付されています。



図は OCU-CR1001VF (-SL)

目次

■ 安全上のご注意	2～6
■ 各部の名称および付属、別売部品	7
■ 使用範囲	8
■ 冷凍機を上手にお使いいただくために	9～10
■ 据付け場所の選定	11
■ 搬入・据付け	12～13
■ 据付け例	14
■ 冷媒配管工事	15～16
■ 配管例	17
■ 電気配線工事上のご注意	18
■ 電気配線工事	19
■ 電気回路図	20～21
■ 保守点検	22
■ 冷凍機の保証条件	23～24

安全上のご注意

必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

	警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
	注意	「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。

	してはいけない内容です。
	実行しなければならない内容です。

警告

据付工事

据付けは、専門業者に依頼し、高圧ガス保安法および施工説明書に準じる



据付工事に不備があると、異常振動等の不具合により、冷媒ガス漏れ・感電・火災のおそれがあります。

指定冷媒以外は使用（冷媒充填・補充・入替え）しない



機器の故障や破裂・けがなどの原因になるおそれがあります。

据付けは、冷凍機質量に十分耐えるところに確実に行う



基礎に不備があると、転倒・落下の事故により、冷媒ガス漏れ・けが・感電・火災のおそれがあります。

- 冷凍機質量の3倍程度のコンクリート基礎とし、アンカーボルトにより、確実に固定してください。

気密試験を行う前に冷媒配管を確実に行う



冷媒ガス漏れにより窒息のおそれがあります。

冷媒充填前に気密試験を実施する



冷媒が漏れると酸素欠乏となり死亡事故のおそれがあります。

- 気密試験を確実にを行い、冷媒漏れの無い事を確認してください。

安全カバーを取付ける



取扱者以外の人が冷凍機に手を触れるとけがをするおそれがあります。

- 安全カバーあるいは防護柵を取付けてください。

配管や機器部品・工具は、R744（CO₂ 冷媒）専用のものを使用する



HFC 冷媒用では、機器の故障のほか、冷凍サイクルの破裂などの重大事故の原因になります。

電気工事

必ず専用回路を使用し、漏電遮断器を設置する



電気工事に不備があると漏電し、火災・感電のおそれがあります。

●〈電気設備に関する技術基準〉、〈内線規程〉および施工説明書に準じて電気工事を行ってください。

アース工事を行う



アース工事がされていないと漏電による感電のおそれがあります。

●電気工事業者によるD種接地工事を確実に行ってください。

電気配線は、指定のケーブルを使用し、固定する



指定のケーブルを使用していなかったり、接続や固定が不完全な場合、電気抵抗が大きくなり、異常発熱・火災のおそれがあります。

●指定のケーブルを使用し、配線固定を確実に行ってください。

電装箱のカバーおよび外装パネルは、確実に取付ける



取付けが不完全な場合は、内部に水や生き物が入り、漏電して火災・感電のおそれがあります。

●確実に取付けられていることを確認してください。

使用上のご注意

安全装置の設定値を変更しない



設定値を変更したまま使用すると安全停止しないで、破裂・発火のおそれがあります。

●安全装置の設定値は、変更しないでください。万一変更した場合は、電源スイッチおよび漏電遮断器を切り、販売店にご相談ください。

外装パネルの換気口およびファンガードに指・棒・異物を入れない



高速回転しているファンに当り、けがのおそれがあります。

漏電遮断器が作動したら、専門業者に連絡する



無理に電源復帰を行うと、漏電により、火災・感電のおそれがあります。

水などが電装箱内部に入ったら、電源スイッチを切り、漏電遮断器をOFFする



そのまま使用するとショートして、火災・感電のおそれがあります。

●電気部品に直接水をかけたり、水洗いをしないでください。

冷媒設備（室内部）には、冷媒ガスの濃度管理のため、漏えい検知器や機械式換気装置を設置する



冷媒ガス漏れにより窒息のおそれがあります。

修理

分解・修理は、専門業者に依頼する



分解・修理に不備があると異常動作により、けが・火災・感電のおそれがあります。

- 分解・修理は、専門業者に依頼してください。
- 改造は、絶対に行わないでください。

異常運転を発見したとき、分解・修理を行うときは、電源スイッチを切り、漏電遮断器を OFF する



異常のまま運転を継続したり、電源を切らずに分解・修理を行うと、漏電やショートして、火災・感電のおそれがあります。

修理用交換部品は、指定部品を使用する



指定部品を使用しないと安全停止しないで、破裂・発火のおそれがあります。

- 販売店にご相談ください。

冷媒配管をはずす前にコンプレッサーを停止する



コンプレッサーを運転したままで配管類をはずすと、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂・けがなどのおそれがあります。

配管や機器部品・工具は、R744 (CO₂ 冷媒) 専用のものを使用する



HFC 冷媒用では、機器の故障のほか、冷凍サイクルの破裂などの重大事故の原因になります。

移動・移設

移動・移設のときは、専門業者に依頼する



移動・移設工事に不備があると、異常振動等の不具合により、冷媒ガス漏れ・感電・火災のおそれがあります。

注意

据付工事

可燃性ガスの漏れるおそれがある場所に設置しない



可燃性ガスが漏れて周囲に溜まるとスイッチの火花などで引火し、火災のおそれがあります。

必要に応じて排水工事を行う



排水の処理が考慮されていないと雨水や霜取後の水分排出により、カビやコケが発生し、すべり転倒してけがのおそれがあります。

空気の淀まないところに据付ける



万一冷媒が漏れると酸素欠乏となり、健康を害するおそれがあります。
●風通しの良い場所に設置してください。

使用基準内で冷凍サイクルを製造する



逸脱した冷凍サイクルでは、異常高圧・異常発熱により、破裂・発煙・発火・漏電のおそれがあります。

吸入ガス管・液出口管は、断熱処理をする



断熱処理をしないと結露の水分排出により、カビやコケが発生し、すべり転倒してけがのおそれがあります。

冷凍機運搬は、専門業者に依頼する



運搬に不備があると冷凍機が転倒・落下し、はさまれてけがのおそれがあります。
●冷凍機は重量物です。専門業者にご相談ください。

電気工事

必ず指定容量の漏電遮断器を設置する



指定容量のものでないと適切な安全停止をせず、火災・感電のおそれがあります。

電気配線は、配管断熱材の中を通さない



配管と一緒にすると露付きによる漏電、過熱による火災のおそれがあります。

使用上のご注意

冷媒が噴出したら、電源スイッチを切り、サービスバルブを全閉にする



サービスバルブのサービス口等冷凍サイクルの一部を開放し、冷媒が噴出すると酸素欠乏となり、健康を害するおそれがあります。

可燃性スプレーは、近くで使用しない、可燃物は、近くに置かない



スイッチの火花などで引火し、火災のおそれがあります。

濡れた手で電気部品に触れない



濡れた手でスイッチ操作をすると感電し、けがのおそれがあります。

点検整備は、電源スイッチを切り、漏電遮断器を OFF して行う



通電したまま点検すると感電・はさまれ・発熱により、けが・火傷のおそれがあります。

漏電遮断器は、定期的に動作確認する



故障したまま使用すると安全停止をせず、火災・感電のおそれがあります。

ガスクーラーのフィンガード（別売部品）を取付け・取りはずすときは、フィンに触れない



フィンに手を触れ、縦に擦るとエッジで手を切るおそれがあります。

冷凍機に乗らない



上に乗ったり、ものを載せると、振動により、転倒・落下してけがのおそれがあります。

コンプレッサー周りの各段サービスバルブを閉めて運転しない



各段の吐出サービスバルブを閉じたまま運転すると異常高圧となり、破裂のおそれがあります。

据付台は定期点検する



長期使用で傷んでいると冷凍機が転倒・落下し、はさまれてけがのおそれがあります。

廃棄

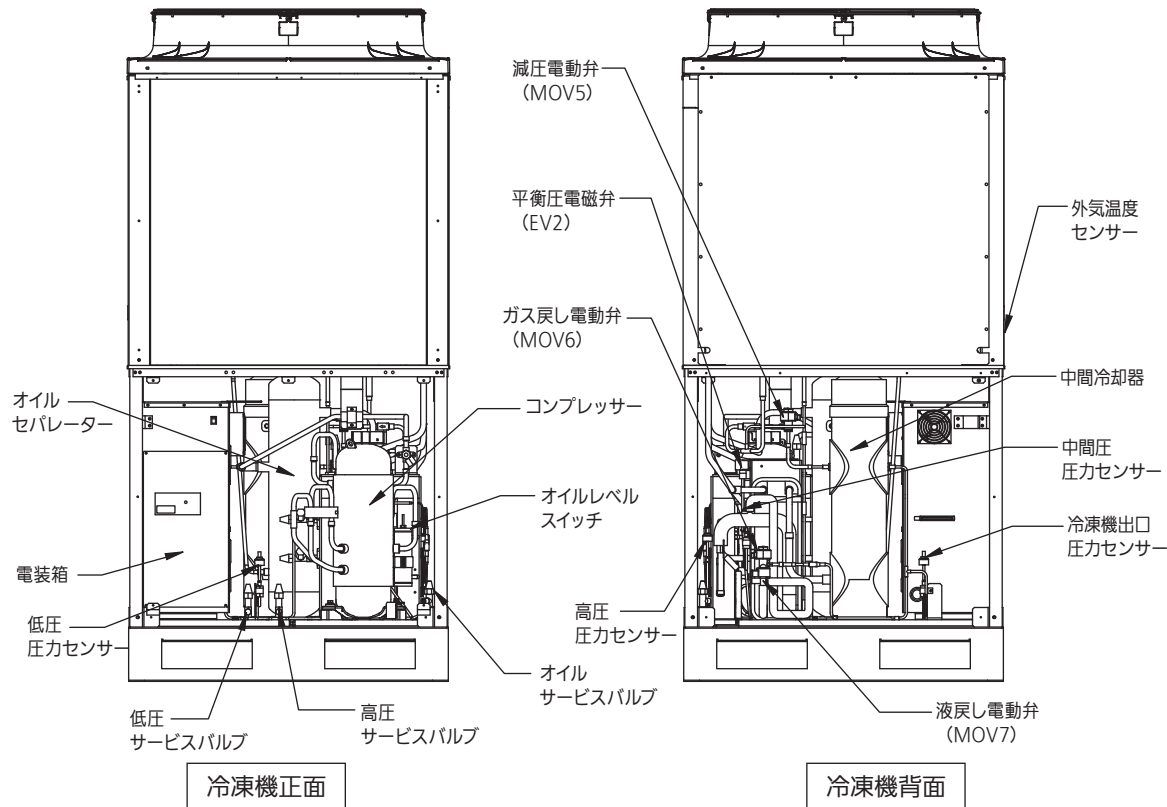
冷凍機の廃棄は、専門業者に依頼する



冷凍機内部に冷媒およびオイルを充填したまま廃棄すると外火により爆発のおそれがあります。

各部の名称および付属、別売部品

各部の名称

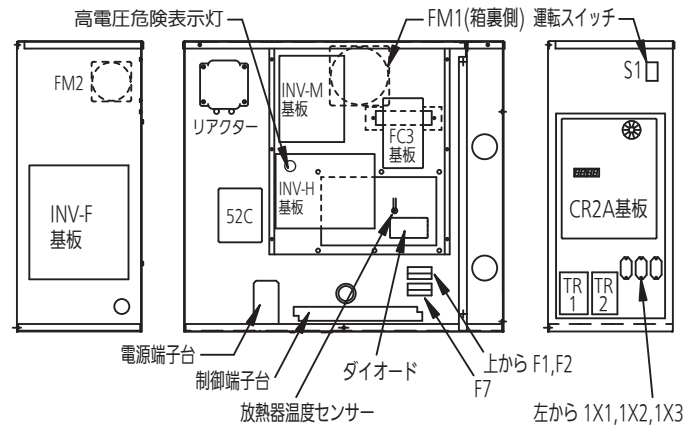


電装箱内部配置図

冷凍機左側面左

冷凍機左側面

冷凍機正面



付属部品

名 称	品 番	適応品番	備 考
フィルタードライヤー	8020-3513-187-000 (型式:DCY-P8 165 S)	OCU-CR1001VF (-SL)	接続径(溶接) φ15.88

注) 本冷凍機にはフィルタードライヤーが同梱されていますので、必ず取付けてください。
なお、フィルタードライヤーを交換する際は、上記のフィルタードライヤーを使用してください。

別売部品

名 称	品 番	適応品番	備 考
サクションフィルター	S-008T1	OCU-CR1001VF (-SL)	冷凍機内部へのゴミ進入防止
ガスクーラー用フィンガード	SPK-GA4014		ワイヤー製ガード

使用範囲

この冷凍機はロータリーコンプレッサーを搭載しています。

冷凍機は下記の使用範囲でご使用ください。

項 目	基 準 値	備 考
使 用 冷 媒	R744	適正封入量であること
蒸 発 温 度	− 45 ℃ ～ − 5 ℃	冷凍機入口圧力の温度換算値
吸 入 圧 力	0.73 MPa ～ 2.95 MPa	冷凍機入口圧力
※ インバーター運転	30 s ⁻¹ (Hz) ～ 60 s ⁻¹ (Hz)	s ⁻¹ =Hz (本文に Hz と表記している場合もあります)
吸 入 ガ ス 温 度	18 ℃ 以下	冷凍機吸入ガス管温度
吸 入 ガ ス 過 熱 度	10 K 以上	蒸発温度とコンプレッサー入口温度の差
吐 出 圧 力	常用 9.1 MPa 以下	コンプレッサー出口圧力
吐 出 ガ ス 温 度	97 ℃ 以下	コンプレッサー出口温度
オ イ ル 温 度	100 ℃ 以下 (周囲温度 + 10 K 以上)	—
冷 凍 機 周 囲 温 度	− 15 ℃ ～ + 43 ℃	ガスクーラー吸込み空気温度
電 源 電 圧	3 相 200 V ± 20 V	冷凍機電源端子電圧
電 圧 不 平 衡 率	2 % 以下	—
設 置 傾 斜 角 度	1° 以下	—
ON-OFF サ イ ク ル 間 隔	ON/OFF 周期 10 分以上	オイル戻りに問題の無いこと
設 置 場 所	屋外設置	頑強な基礎が必要
冷 凍 機 内 容 積	30.5 L	—

※設置状況によっては、運転できない場合もあります。

冷媒の純度

冷凍機に充填する冷媒 (R744) は以下の基準に適合するものを使用してください。

項 目	基 準
純 度	99.9 vol.% 以上
水 分	0.005 vol.% 以下 (露点: − 48℃ 以下)
全硫黄分	0.03 wt.ppm 以下
不活性ガス (H ₂ 、N ₂ 、O ₂ 、Ar)	0.01 vol.% 以下

寒冷地における対策

寒冷地では、高圧圧力が下がり過ぎないように、冷凍機を囲む等の対策をしてください。

冷凍機を上手にお使いいただくために

施工上の注意

この製品は R744（CO₂ 冷媒）専用冷凍機です。

冷凍機油やコンプレッサーを含む各部品は専用設計されたものを使用しています。

製品の信頼性を保つために下記の点に充分注意してください。

- (1) CO₂ 冷媒は冷凍サイクル運転中に圧力が高くなりますので、配管や機器部品には十分に耐圧強度のある CO₂ 冷媒専用ものを使用してください。
- (2) 冷凍機油は水分吸着性が高いので、開放時間はできるだけ短時間にしてください。また、冷凍機の接続は配管施工の最後に行ってください。なお、雨天での屋外工事は行わないでください。
- (3) 配管は清浄な『りん脱酸銅管』や『高強度銅管』、ろう材は『りん銅ろう』を使用してください。なお、ろう材に『銀ろう』を使用する場合は、塩素を含んだフラックスは使用しないでください。
- (4) HFC 冷媒用継手は強度不足のため、使用しないでください。また、フレア継手は絶対に使用しないでください。
- (5) 冷凍機および冷凍サイクル保護のため、別売のサクションフィルターおよび付属のフィルタードライヤーを冷凍機に必ず取付けてください。
- (6) 気密試験で使用するガス漏れ検知液は、発泡液または石鹼水を使用し、台所用洗剤などは使用しないでください。台所用洗剤などは、金属を腐食させるおそれがあります。
- (7) CO₂ 冷媒の場合、冷凍機据付時の『冷媒充填』および冷媒回路修理時の『冷媒再充填』、『冷媒追加充填』は、量の多少にかかわらず高压ガスの販売行為となるため、届出が必要です。

経済的にご使用になるために

冷凍機を経済的にお使いいただくために、以下を参考にしてください。

冷凍能力は使い方により大きく増減します。

蒸発温度が 1℃（冷凍機入口圧力の温度換算値）低下すると冷凍能力は 2～4%程度低下し、吐出圧力が上昇すると、冷凍能力は低下し電力消費量は増大します。

冷凍機の性能を充分発揮させるためには、コンプレッサーの吸入圧力をなるべく高くし、吐出圧力をより低くすることが大切です。そのため、次の点に注意してください。

- (1) 配管抵抗をできるだけ小さくしてください。

参考：吸入ガス管の圧力損失 1℃当りの能力変化率

蒸発温度（℃）	1℃当りの能力変化率
-45～-5	2～4%

- (2) 十分な容量のエバポレーターを選定し、蒸発温度をより高くしてください。
- (3) 冷蔵（冷凍）庫またはショーケース内の冷気の吹出口・吸込口を食品等でふさがないでください。
- (4) 冷蔵（冷凍）庫の扉の開閉はすばやく行ってください。（冷気の流出を防ぐため、開けている時間を短くしてください）
- (5) ガスクーラーの清掃を定期的に行い、目詰まりを起こさないようにしてください。

冷凍機を上手にお使いいただくために

インバーター冷凍機としてのご注意

- (1) 電源を OFF しても、充電部には電圧が印加されています。インバータ基板 LED（赤色）が消灯するまで（キャパシターが放電するまで約 5 分かかります）、充電部には触れないでください。
- (2) 進相コンデンサー取付け禁止
インバーターコンプレッサーには進相コンデンサーは取付けないでください。インバーター故障やコンデンサーパンクの原因になります。
- (3) インバーターノイズ対策
ラジオ受信機、有線放送の配線等からできるだけ離してください。
インバーターのノイズにより雑音が出る可能性があります。
- (4) 2 段圧縮機構により、コンプレッサーの 2 段目吐出ガス温度上昇を防止しています。
冷凍回路中の冷媒量が少ない運転では保護装置（制御基板）によりコンプレッサーが停止します。
ガス欠運転はしないでください。
- (5) ロータリーコンプレッサーは高精度な部品から構成されています。配管工事の際、ゴミ・金属粉・酸化スケール等の異物が混入しないようご注意ください。

初期オイル封入量

品 番	コンプレッサー	オイルセパレーター
OCU-CR1001VF (-SL)	1.8L	5.0L

封入オイルの種類	ダフニーハーメチック PZ-68S
----------	-------------------

注意

オイル追加またはオイル交換を行う場合は、必ず当社指定のオイルを使用してください。

据付け場所の選定

一般注意事項

各機器の配置は、工事のやり易い場所、日常の操作、保守点検のやり易い場所を選定してください。

- (1) 各機器の距離は、配管長・配線長ができる限り短く、また施工のやり易い場所を選定してください。
- (2) コントローラーは、日常の運転操作（運転 / 停止・警報リセット等）をとまないので、必ず使用者の手の届く位置に設置してください。また、使用者以外の人が立ち入るような場所には設置しないでください。
- (3) 冷凍機は、日常の保守点検をとまないのでサービスのやり易い場所に設置してください。
日常の保守点検とは、運転圧力・コンプレッサーの運転状況（異常音、異常振動はないか）の点検をいいます。

隣家の迷惑にならないところ

ガスクーラーからの吐出風が隣家の窓へ吹きつけたり、騒音が伝わらないようにしてください。

床は丈夫で水平なところ

騒音や振動が増大しないように、しっかりした基礎工事の台の上に設置してください。特に隣家との境界線では、各地域の法規則・条例等に従ってください。

熱気から離れたところ

床からの照り返しの影響がないように設置してください。

風通しのよいところ

放熱を良くするために、ガスクーラーの吸い込み空気が43℃以下で、風通しの良い場所に据付けてください。

床が濡れてもよいところ

冷凍機は雨水や、場合によっては霜取り後の水分が排水されます。必要に応じて排水工事を行ってください。

雪の積もらないところ

寒冷地帯での据付けは冬場の雪を防ぎ、凍結や着霜をしにくくするために必ず屋根等の対策を行ってください。

搬入・据付け

- ・冷凍空調装置の施設基準（高圧ガス保安協会）の規制を受けますので、施設基準に準じて施工してください。
- ・本冷凍機は合算して法定冷凍トン数が 20 トン以上となる冷凍装置または付属装置としては使用できません。

搬入

- (1) 冷凍機はできるだけ垂直に保って、静かに搬入してください。
- (2) 冷凍機の横倒しは絶対に避けてください。
- (3) 冷凍機をフォークリフト等で搬入する場合は、ユニットベースの角穴を使用して、冷凍機が垂直になるように搬入してください。

吊り下げ

冷凍機を吊り下げる場合、以下の点に注意してください。

- (1) 冷凍機本体に貼付けしてある「製品吊り下げ時の注意事項」に従い冷凍機を吊り下げてください。
- (2) 冷凍機を吊り下げて移動する場合、本体が水平になるようにバランスを保って、衝撃を与えないように移動してください。
- (3) ロープ等は冷凍機質量に十分耐えるものを使用してください。（クレーン等安全規則に従ってください）

基礎・架台工事

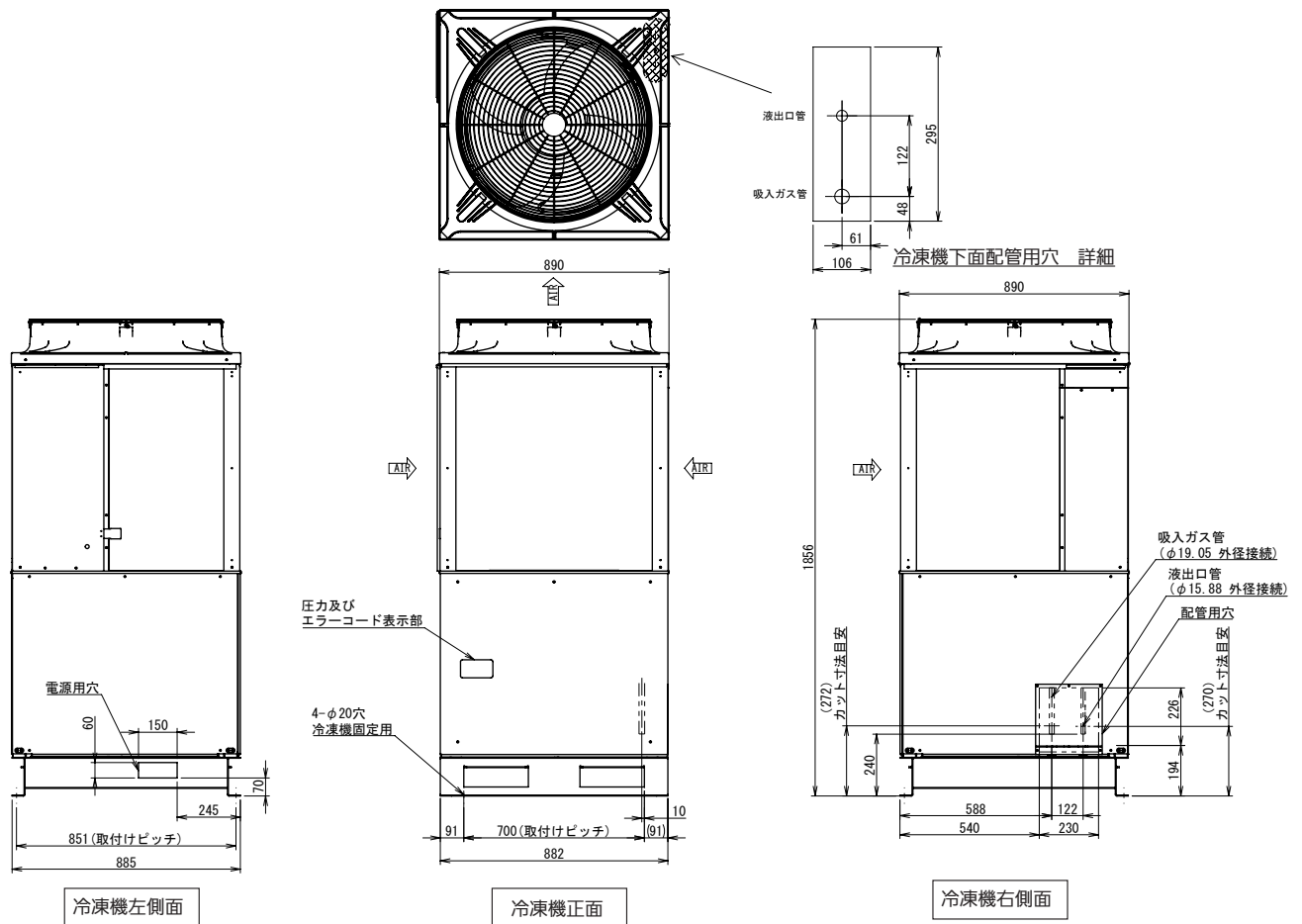
- ・基礎は、冷凍機質量の 3 倍程度のコンクリート基礎を基準としてください。（質量により振動吸収）
- ・架台・防振パッドで振動を減衰させ、床・壁等への振動の伝達を防いでください。
- ・転倒防止のため、アンカーボルトにて確実に固定してください。（取付け箇所すべてを固定してください）
- ・冷凍機の設置の傾斜は、1° 以下にしてください。

上記の基礎が確保できない場合には、冷凍機本体や施工配管が、共振による異常振動がないことを必ず確認してください。

- (1) 配管を横に出す場合の標準的基礎工事
床面より厚さ 150mm 以上の基礎コンクリートの上に、防振パッド（厚さ 8 ～ 15mm 程度）をユニットベース全面に入れアンカーボルトで固定してください。
- (2) 配管を下に出す場合の標準的基礎工事
げた基礎等の床上げをしてください。
防振パッド（厚さ 8 ～ 15mm 程度）は、げた基礎の全面に入れアンカーボルトで固定してください。

搬入・据付け

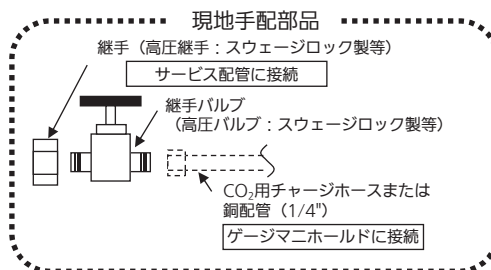
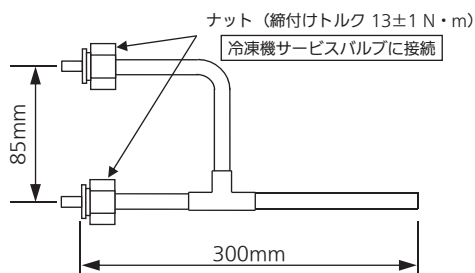
外形寸法



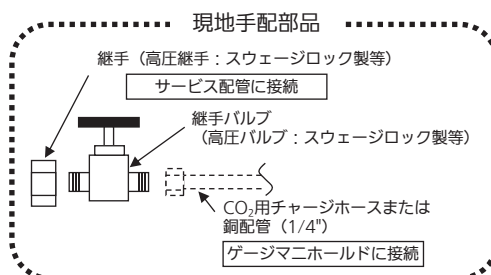
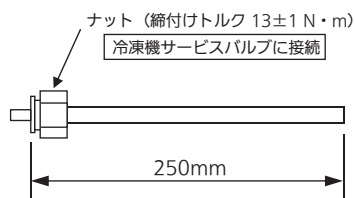
サービス配管 [別売部品]

冷凍機据付け工事およびサービス時に以下のサービス配管（別売部品）が必要になります。

(1) 真空引き、気密試験、冷媒充填用 サービス配管 (SPK-TU127)



(2) 冷凍機オイル追加充填用 サービス配管 (SPK-TU126)

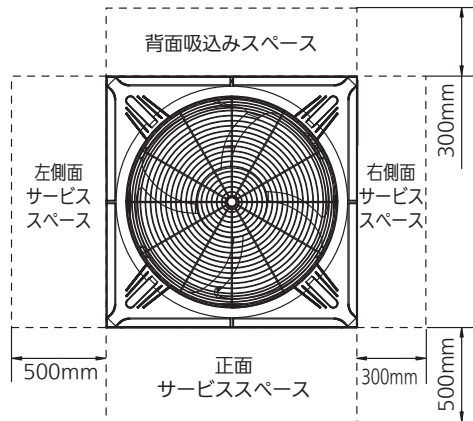


据付け例

標準設置

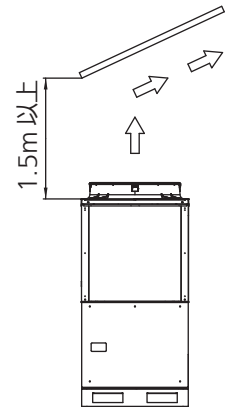
ガスクーラーは正面および左右からの3方向吸込み、上吹き出しとなっています。

- (1) 正面・左側面はサービス用スペースとして500mm以上空けてください。
- (2) 背面・右側面はサービス用スペースとして300mm以上空けてください。



上方に障害物がある場合

上方に障害物がある場合等、ガスクーラーの風がショートサイクルにならないように設置してください。
屋根を設ける場合、下図のように1.5m以上の上方に傾斜をつけて設置してください。

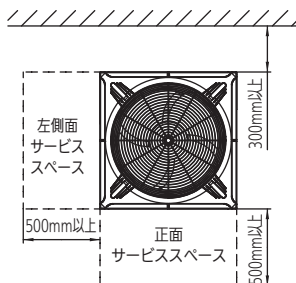


降雪地域における対策

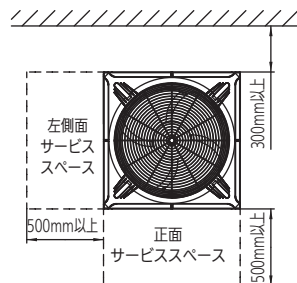
- (1) 防雪フードを吹き出し口に取り付けてください。
(現地施工)
- (2) 冷凍機全体が積雪で埋まらないように据付けてください。

据付け例

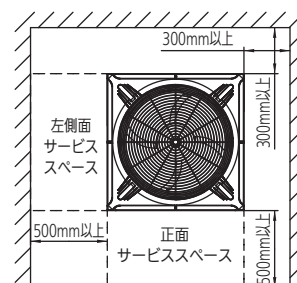
●壁が一面の場合



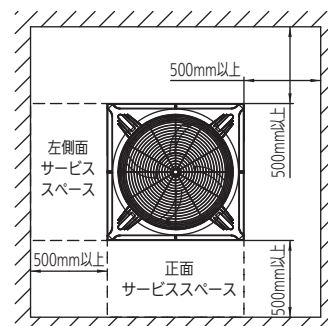
●壁が二面の場合



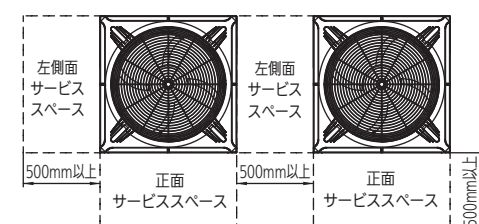
●壁が三面の場合



●壁が四面の場合



●連続設置の場合



*下部に4㎡以上の空気吸い込み口を設けること
*壁の高さは冷凍機高さまで

冷媒配管工事

冷媒配管工事の設計施工の良し悪しが冷凍装置の性能や寿命およびトラブル発生に大きな影響を与えますので、高圧ガス保安法および関係基準と以下に示す項目に従って設計施工してください。

冷媒配管サイズの選定

冷凍機間の配管接続サイズは基本的には次の通りですが、配管の圧力損失や冷媒流速を計算して、冷凍能力やオイル戻りに支障のないように、サイズを決定してください。

(単位：mm)

品 番	吸入ガス管 (外径溶接)	液出口管 (外径溶接)
OCU-CR1001VF (-SL)	φ 19.05	φ 15.88

- (1) 材質：JIS H3300「銅及び銅合金の継目無管」C1220T（りん脱酸銅）やC1862T（高強度銅）を使用してください。
- (2) 配管サイズは下表によるものをご使用ください。
- (3) パイプを切断する場合は、パイプカッターを使用し、必ずバリ取りを行ってください。
- (4) 配管の曲げ加工をする場合は、外径の4倍以上の曲げ半径で加工してください。
また、曲げ加工する際、配管のつぶれ・傷等に十分注意してください。

注意

配管の管理には十分注意し、管端部はキャップかテーピング等によりシールし、管内へゴミ・水分等の異物が侵入しないようにしてください。

施工配管の設計圧力は、吸入ガス管および液出口管ともに8MPaとしていますので、下表の冷媒配管と肉厚を推奨します。

<冷媒配管>

C1220T（りん脱酸銅）

(単位：mm)

施工箇所	質 別	配管外径	肉 厚
吸入ガス管 液出口管	O 材	φ 12.70	T1.4
		φ 15.88	T1.6
	1/2H および H 材	φ 19.05	T1.6
		φ 22.22	T1.8
		φ 25.40	T2.0

C1862T（高強度銅）

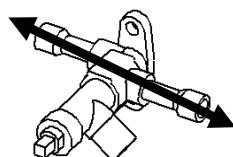
(単位：mm)

施工箇所	質 別	配管外径	肉 厚
吸入ガス管 液出口管	O 材	φ 12.70	T1.0
		φ 15.88	T1.1
	1/2H および H 材	φ 19.05	T1.3
		φ 22.22	T1.5
		φ 25.40	T1.7

サービスバルブ操作方法

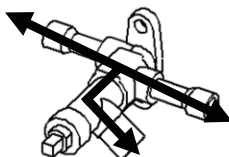
A バックシート側
(ステム左回し限界)

サービスバルブ開



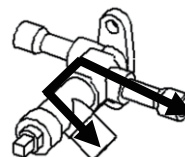
B 中間シート側

サービスバルブ中間



C フロントシート側
(ステム右回し限界)

サービスバルブ閉



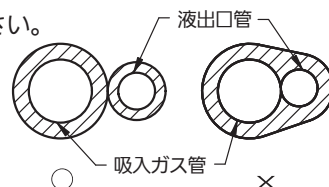
冷媒配管工事

配管施工の注意

- (1) 出荷時、冷凍機内にR744冷媒が約0.1MPa程度封入してあります。
冷凍機の吸入ガス管および液出口管の施工作业前、必ず下記順番の通りパージ作業を行ってください。
 - ① 高圧サービス口からパージ、パージ完了後、次の順序に移る
 - ② 低圧サービス口からパージ
- (2) 冷凍機内残圧がなくなったら、施工配管に合わせ冷凍機の吸入ガス管および液出口管をパイプカッターで切断・調整してください。
※ 配管封止部を溶接で外す場合、配管内冷凍機油に引火する恐れがあります。必ず切断してご使用してください。
- (3) 冷凍機の吸入ガス管および液出口管を施工配管に接続する際、冷凍機の吸入ガス管固定金具や液出口管固定金具は取外さないでください。
- (4) 配管振動を防止するため、冷凍機に接続する施工配管は、強固な基礎からとった支持に確実に固定してください。
特にサクションフィルターの固定は冷凍機から1m以内および振動防止のため、左右2ヵ所を確実に固定してください。
運転時、冷凍機本体や施工配管に異常振動や共振がないことを必ず確認してください。

断熱施工の注意

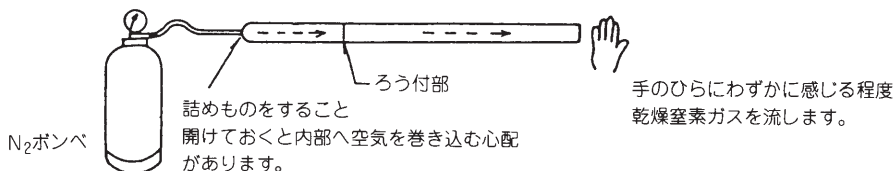
- (1) 吸入ガス管および液出口管は外部の熱影響を受けないように、断熱施工を実施してください。
- (2) 吸入ガス管と液出口管を結合した状態で断熱しないでください。(右図参照)
- (3) 断熱施工は必ず気密試験を行った後で施工してください。
- (4) 断熱施工する際の保温材はアンモニアや塩素を含まず、撥水性が高く、吸水性の低い物を選定してください。



ゴミ・金属粉・酸化スケール等の異物混入防止

高精度の部品から構成されているため、異物の混入により摺動面にキズが発生すると、圧縮ガスの漏れが多くなり、能力が低下するばかりでなく摩耗・焼付を起こすことになります。

- (1) 溶接時は窒素ガスを流す。
- (2) 配管内外は清浄なものを使用する。
- (3) 銅配管の切断およびバリ取り時の切粉が混入しないようにする。



気密試験

〔配管工事終了後、配管に断熱工事をする前に実施してください。〕

検査圧力は下表の圧力で実施してください。

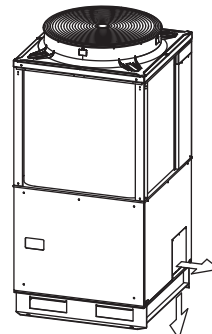
液出口管	吸入ガス管
8MPa	8MPa

ガスリークの注意

ガスリークを起こしますとコンプレッサー過熱運転・エアかみ運転になることが考えられ、この場合、コンプレッサーの故障の原因になります。
気密試験は確実に行ってください。

配管取出し方向

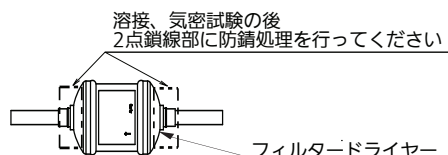
配管取出し方向は右側面と下面の2方向になります。
配管工事は、右パネルを取りはずして行ってください。



サクションフィルター・フィルタードライヤーについて

別売のサクションフィルターを必ず取付けてください。
品番：S-008T1

付属のフィルタードライヤーを必ず取付けてください。
品番：8020-3513-187-000 (型番：DCY-P8 165 S)

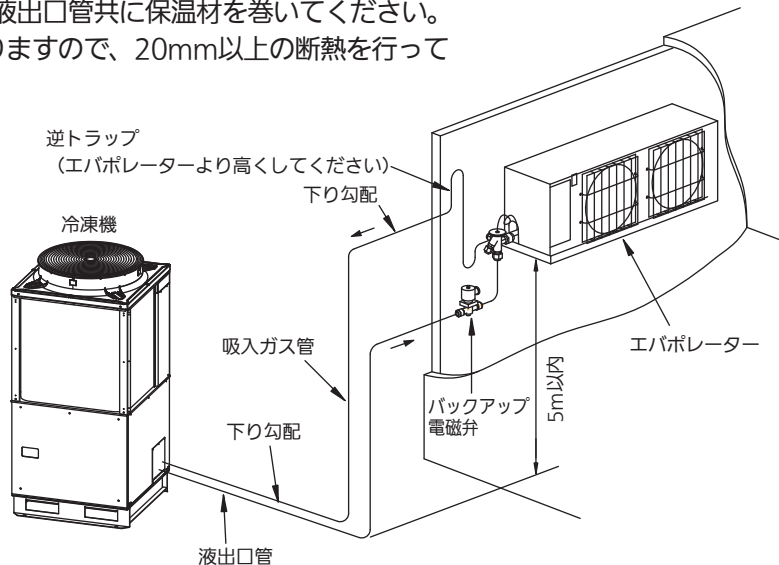


配管例

エバポレーターが上にある場合

高低差5m以内

- (1) 下り勾配は、1/200～1/250にしてください。
- (2) 冷媒配管は、吸入ガス管および液出口管共に保温材を巻いてください。
液出口管は、運転中約0℃になりますので、20mm以上の断熱を行ってください。

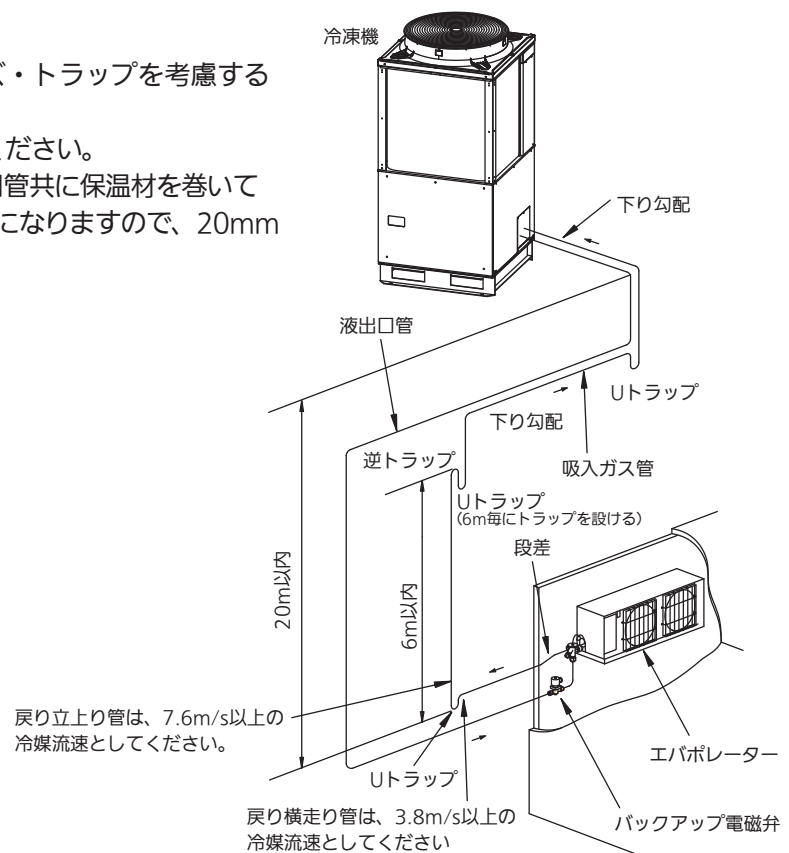


エバポレーターが下にある場合

高低差20m以内

吸入ガス管の油もどりのため、配管サイズ・トラップを考慮する必要があります。

- (1) 下り勾配は、1/200～1/250にしてください。
- (2) 冷媒配管は、吸入ガス管および液出口管共に保温材を巻いてください。液出口管は、運転中約0℃になりますので、20mm以上の断熱を行ってください。



電気配線工事上のご注意

電気工事は、電気設備に関する技術基準を定める省令（経済産業省令）および所轄電力会社の内線規程に従うほか、以下の内容にそって電気工事士の有資格者が行ってください。

必ず指定容量の漏電遮断器を設置する



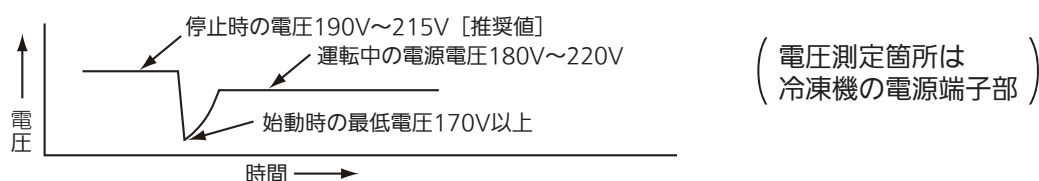
指定容量のものでないと適切な安全停止をせず、感電・火災のおそれがあります。
漏電リレーでは保護できません。

感電・火災の防止

- (1) アース配線（D 種接地工事）を行ってください。
- (2) 専用回路としてください。（他の製品と共用しないでください）
- (3) 電線は、高温部（コンプレッサー、ガスクーラー、吐出配管）および金属のエッジ部に接触しないようにしてください。

許容電源電圧

本冷凍機の許容電源電圧は、下図の通りですので、この範囲に入るようにしてください。



停電後の再通電時、冷凍機を含め各種機器が通常同時に始動します。

電源容量・配線容量に余裕がないと、電圧が170V以下に下がりモータが始動できず、モータ・電装品の不具合事故が発生する場合があります。

その場合は、各種機器が同時始動しないよう、順次始動させてください。（遅延タイマーの追加が必要です）

漏電遮断器と配線太さの選定

品 番	漏電遮断器		配線長に対する動力線太さ (mm ²)				接地線太さ (mm ²)	制御回路太さ (mm ²)
	定格電流	感度電流	10m	20m	30m	50m		
OCU-CR1001VF (-SL)	50A	100mA	14	14	14	22	3.5 以上	2.0

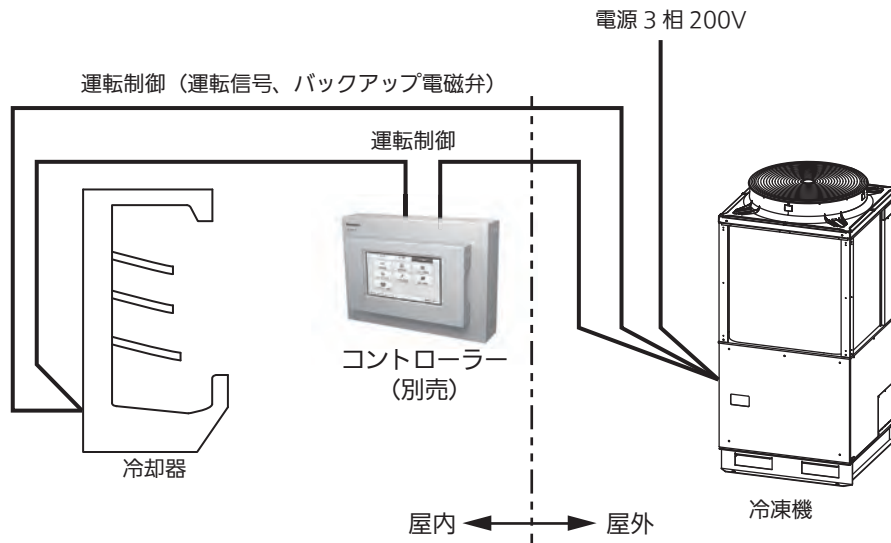
注1) 上表の値は電線周囲気温度 40℃以下で、電線の種類は 600V ビニール絶縁電線 3 本以下の場合です。

注2) 電線太さは冷凍機の周囲温度 32℃、蒸発温度 -10℃の場合の値を示します。

注3) 電源端子台の端子ねじ締付トルクは、4.5 N・m ~ 5.5 N・m に設定し、確実に締め付けてください。

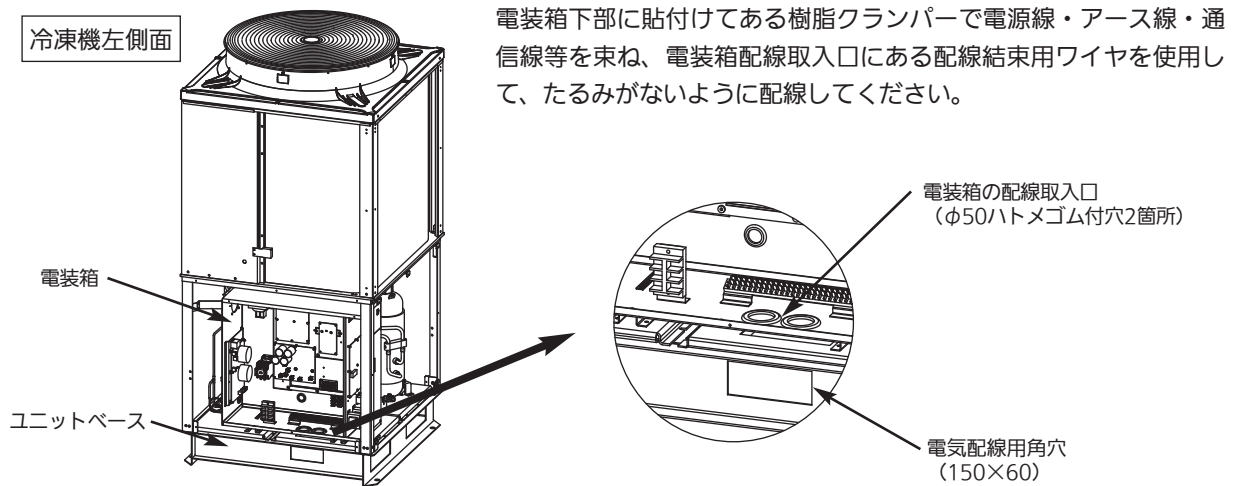
電気配線工事

配線ブロック図例



配線の取入口

配線の取入口は、冷凍機の左側面にあります。(ユニットベースに電気配線用の角穴があります)



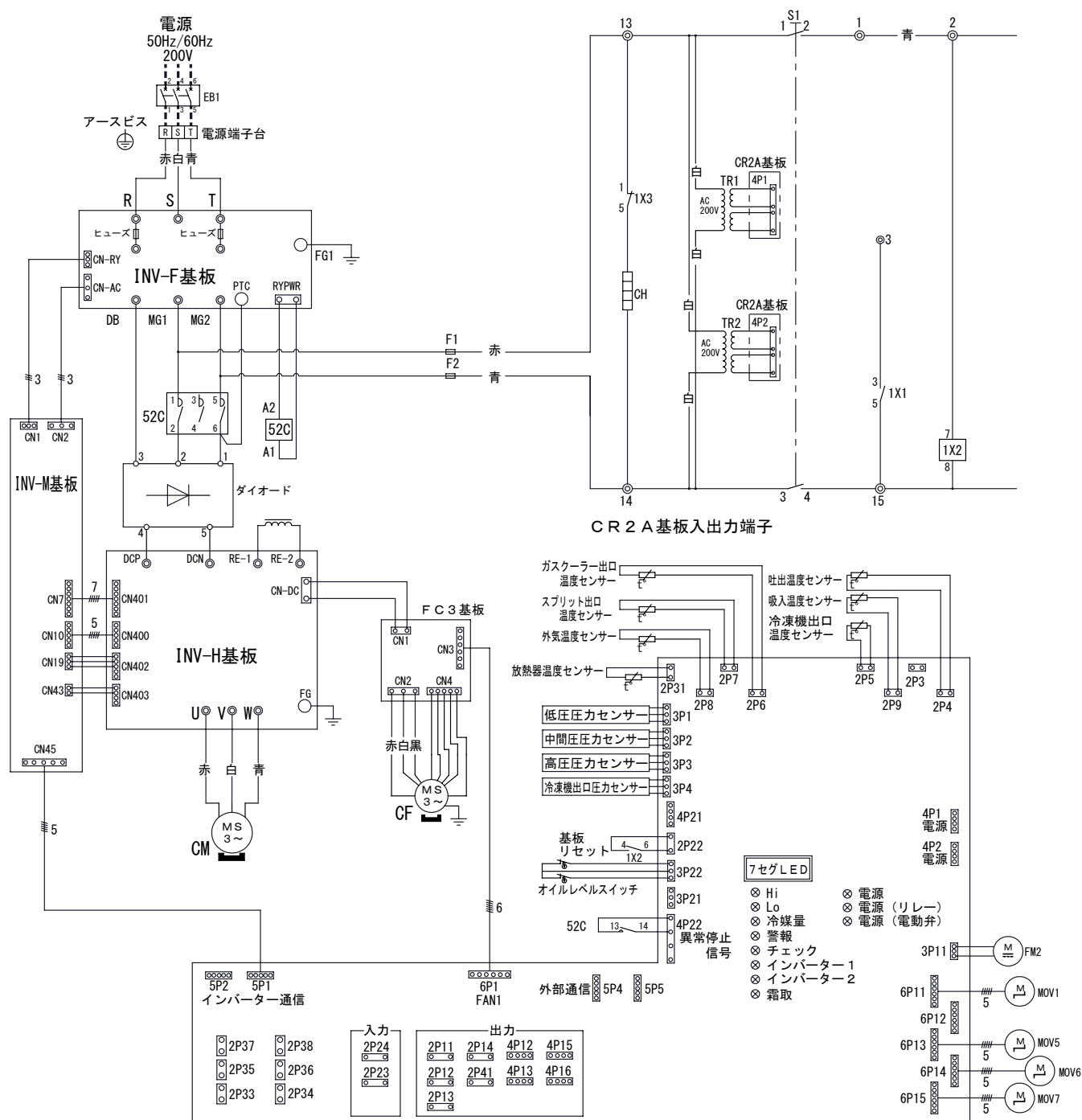
注意

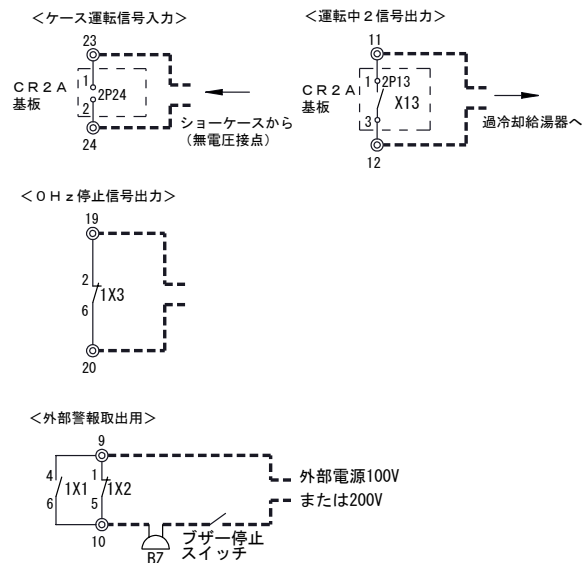
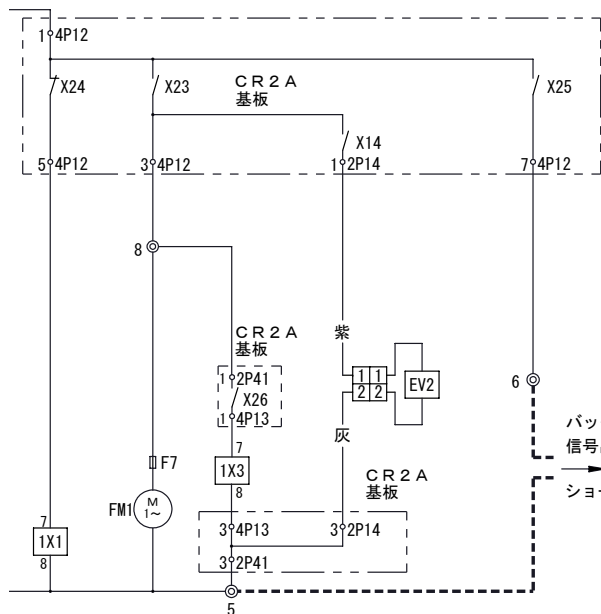
施工後パネルの取付けが不完全な場合、雨水侵入の危険がありますので、施工後はパネルをしっかり固定してください。

電気回路図

電気回路図（標準電気配線図）

標準電気配線図に従って、バックアップ電磁弁、ショーケース運転信号入力を接続してください。



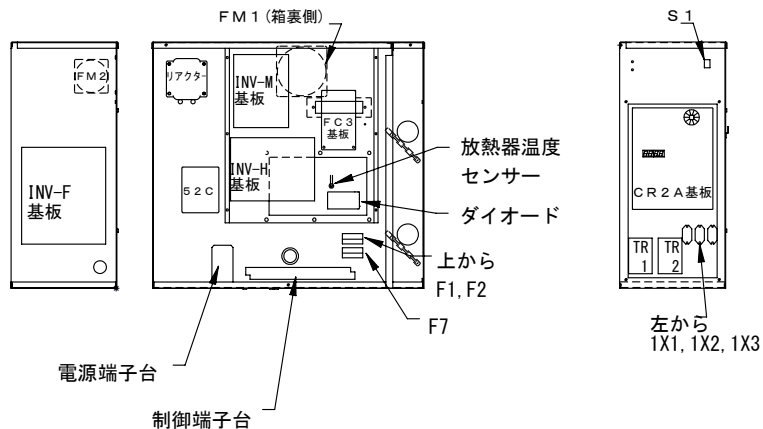


電装箱内部部品配置図

冷凍機左側面左

冷凍機左側面

冷凍機正面



記	名	称
F 1, 2	ヒューズ (250V, 5A)	
F 7	ヒューズ (250V, 2A)	
S 1	運転スイッチ	
1 X 1-3	補助リレー	
S 2 C	インバーター用電磁接触器	
CM	コンプレッサーモータ	
CH	クランクケースヒーター	
CF	ガススクラフファンモータ	
FM 1	インバーター冷却ファンモータ	
FM 2	電装箱冷却ファンモータ	
CR 2 A 基板	コンプレッサー容量制御、油面および各種保護制御 X 2 3 : 運転 / 保護停止、X 2 4 : 外部警報 X 2 6 : 0 Hz 停止、X 2 5 バックアップ電磁弁	
TR 1, 2	CR 2 A 基板用電源トランス (温度ヒューズ内蔵)	
FC 3 基板	DC ファンモータ制御	
EV 2	平衡圧電磁弁	
MOV 1	オイル制御電動弁	
MOV 5	減圧電動弁	
MOV 6	ガス戻し電動弁	
MOV 7	液戻し電動弁	
EB 1	漏電遮断器	*
BZ	外部異常警報ブザー	*
◎	端子台	
---	工場結線	
----	現地結線	

(ご注意)

1. アースは表示ラベルの位置に必ず行ってください。
2. 外部警報 (無電圧接点) は端子台 9-10 よりお取りください。
3. 警報発報時には異常内容を確認し、不具合の原因を取り除いてから、電源を再投入してください。
4. * 印の機器は現地手配となります。



漏電遮断器の設置とアース配線工事が必要です。

保守点検

保守点検は専門業者にご依頼ください。

保守点検のお願い（施工業者等の専門業者様へ）

冷凍機の構成部品は永久的にもつものではなく、ある期間で消耗する部品が含まれています。
事故を未然に防ぐためには、寿命がくる前に定期的に点検し部品交換する必要があります。施工業者様は顧客と保守管理契約を結び、冷却システムを含めた定期点検を実施するようお願いいたします。

交換部品と交換の目安

冷凍機の主な点検・交換部品と点検・交換の目安は次の通りです。点検にて異常が見られたら早めに交換してください。なお、点検・交換に際しての技術的な詳細事項は、当社発行の「冷凍機器ハンドブック」「技術サービスマニュアル」等を参照ください。

点検・交換時期の目安は、運転率や運転状態・周囲環境および各部品等により異なるので特定できませんが、特に、
(1) 試運転時、(2) 定期点検時、(3) システム補修時などの時に十分な点検実施をお願い致します。

点検項目・交換部品		点検内容・交換の目安
システム全体（各部の温度）		(1) 冷却温度に合った圧力状態であること (2) 各部の温度状態正常なこと (3) 据付け状態に異常がないこと
コンプレッサー	異常音・異常振動	異常音・異常振動等の発生のないこと
ガスクーラー	フィンが目づまり	フィンが目づまりを起こしていないか…定期的清掃
	ファンの回転	ファンの回転状態に異常はないか
容器関係 (コンプレッサー含む)	外観のサビ・腐食 (定期点検 5 年毎)	(1) 著しいサビ・腐食の発生のないこと 著しいサビ・腐食が発生している時は補修塗装 (2) 異常な腐食が発生している場合、サービス窓口にお問合せください
配管部品	フィルタードライヤー	フィルタードライヤーのつまり・変形やフィルタードライヤーの入口出口温度差大、圧力差大の時は交換
	サクションフィルター	サクションフィルターのつまり・変形やサクションフィルターの入口出口温度差大、圧力差大（冷凍機異常低圧）の時は交換
	その他配管部	冷媒漏れ、オイル漏れ、変形、異常振動、断熱材劣化等がないこと
電気部品	ファンモータ	異常音、回転が重い、オイルにじみ等の時は交換
	保護装置・制御部品の作動	作動不良、チャタリング等による制御不良の時は交換
	端子・配線等	変色、絶縁劣化していないか
	電装箱エアフィルター	汚れに応じて定期的に（3～6ヶ月）に清掃してください

冷凍機の保証条件

無償保証期間および範囲

無償保証期間は冷凍機を据付けた日から1年間といたしますが、無償保証の範囲は故障した当該部品とし、代品を支給いたします。

ただし、下記による故障については、保証期間中であっても有償となります。

保証できない範囲

(1)本施工説明書に指定した使用範囲を守らなかったことによる故障の場合

(2)機種選定、冷凍装置設計に不具合がある場合

適合冷凍機種の組み合わせミス、電磁弁等の制御機器不適正、その他施工説明書と本体に表示されている禁止事項・注意事項・指示事項を順守せず、冷凍サイクルを設計したことにより、故障に至ったと弊社が判断した場合。

(3)据付工事に不具合がある場合

- ① 据付工事中取扱い不良のため損傷、破損した場合
- ② 据付配管工事中にサイクル内に異物（ゴミ・金属粉等）が入ったことによる不良と判断される場合
- ③ 据付工事内容において電気配線不良と判断される場合
- ④ 弊社関係者が工事上の不備を指摘したにもかかわらず改善されなかった場合
- ⑤ 各種法規に違反する工事により生じた事故
- ⑥ 振動が大きく、もしくは運転音が大きいのを承知で運転した場合
- ⑦ 軟弱な基礎、軟弱な台枠が原因でおこした場合
- ⑧ 接続配管ろう付け時の不具合により、逆止弁・電磁弁等が作動不良となった場合
- ⑨ 電気部品への切粉侵入による事故（追加部品等取付けのための穴加工時）
- ⑩ 本品に指定された設置場所、使用周囲温度、使用電圧の範囲を守らなかったことによる事故の場合

(4)弊社の製品仕様を据付けに当たって現地改造、付帯工事あるいは移設したことにより生じた事故、または弊社製品付属の保護機器を使用せずに事故となった場合

(5)運転環境および保守点検が不備なことによる事故の場合

- ① 油（機械油を含む）、水分、塩分（海岸地区等、ただし塩害仕様品は除く）、硫化ガス（温泉地区等）などの多い環境に据付けたことによる事故
- ② 据付け場所の不具合による事故（風量不足、水圧、化学薬品等の特殊環境条件）
- ③ 制御機器等の調整ミスによる事故
- ④ ショートサイクル（運転一停止おのおの5分以下）運転による事故
- ⑤ メンテナンス不備（ガス漏れを気付かなかった場合）
- ⑥ 修理作業ミス（部品違い、欠品、取付け不良）
- ⑦ 冷媒過充填、冷媒不足および冷凍機油不足に起因する事故（始動不良、モータ冷却不良、潤滑不良）
- ⑧ 除霜不良による事故
- ⑨ 異常電圧による事故
- ⑩ 冷凍サイクル内に空気、水分を吸い込んだと判断される場合

冷凍機の保証条件

保証できない範囲

(6) 電源の不具合による事故の場合

- ① 電源側のヒューズ溶断、電線の端子緩みによる单相通電（欠相）によって起こるモータ、電装品の不具合事故
- ② 停電後、非常電源への切り替え後の始動時に起こる電源電圧異常低下（170 V 以下）によって起こるモータ・電装品の不具合事故
- ③ 雷等による電源への異常高電圧の印加あるいはアーク火花等の過大ノイズ印加によるモータ、電装品の不具合事故
- ④ 規定の電圧以外の条件による事故の場合および汎用インバーター等の使用による歪み電圧を印加した事故の場合
- ⑤ 当社指定容量の漏電遮断器を取付けずに生じた事故の場合

(7) 本製品に指定された蒸発温度、凝縮温度、使用周囲温度、使用電圧の範囲を守らなかったことによる事故の場合

(8) 火災、地震、水害、落雷その他の天災地変による事故

(9) 国外で使用した場合

(10) 車両、船舶、搬送車などに搭載使用した場合 (振動、衝撃、瞬時停電、油面確保等に影響)

(11) その他、冷凍機の据付け、運転、調整、保守上常識となっている内容を逸脱した工事および使用方法での事故は一切保証できません。また、冷凍機事故に起因した冷却物、営業保証等の二次補償はいたしません。したがって、二次災害については警報システムの設置あるいは弊社代理店等と相談の上、事前に損害保険を掛けるなどで対処してください。

施工説明書に記載されていない方法や、指定の部品を使用しない方法で施工されたことにより事故や損害が生じたときには、当社では責任を負えません。また、その施工が原因で故障が生じた場合は、製品保証の対象外となります。

◎商品に関わるご相談

商品に関わるご相談は、ご購入いただいた販売店または代理店へご相談ください。

(販売元)

**パナソニック
HVAC & CCシステムズ株式会社**

コールドチェーン事業部
〒370-0596 群馬県邑楽郡大泉町坂田 1丁目1番1号

お客様の個人情報のお取り扱いについて

お客さまからお受けした、お客さまのお名前、ご住所、お電話番号などの個人情報は適切に管理いたします。また、お客さまの同意がない限り、業務委託の場合および法令に基づき必要と判断される場合を除き、第三者への開示は行いません。

＜利用目的＞

●お客さまからお受けした個人情報は、商品・サービスに関わるご相談・お問い合わせの対応のみを目的として用います。なお、この目的のためにパナソニック HVAC & CCシステムズ株式会社および関係会社で上記個人情報を利用することがあります。

＜業務委託の場合＞

●上記目的の範囲内で対応業務を委託する場合、委託先に対しては当社と同等の個人情報保護を行わせるとともに、適切な管理・監督をいたします。